

京葉銀行のコミュニケーションシンボル



「**α**」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、

人ととの“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。

コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、

“人のきずなを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”

“常に皆さんにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”

そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

確かな“きずな”を、未来へ。



京葉銀行

京葉銀行 中間レポート 2020

SEMI-ANNUAL REPORT 2020

「2020京葉銀行中間レポート」

本冊子は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料（業務および財産の状況に関する説明書類）です。

2020年12月発行

発行：株式会社 京葉銀行 経営企画部

〒260-0026 千葉市中央区千葉港5-45

TEL (043) 306-2121 (代)

<https://www.keiyobank.co.jp/>



この印刷物には、環境に配慮した植物油インクを使用しています。

〈別冊のご案内〉

銀行法施行規則第19条の2および
第19条の3、金融機能の再生のため
の緊急措置に関する法律施行規則
第6条に基づく開示事項に関して
別冊を作成しています。
別冊は京葉銀行ホームページに
掲載しています。

別冊「2020京葉銀行中間レポート」
資料編



目指す銀行像

お客さまに信頼と利便性、
高い満足度を提供する魅力のある、
活力あふれる銀行



当行のプロフィール

名 称／株式会社京葉銀行
英 文 名 称／The Keijo Bank, Ltd.
設 立／1943年3月31日
資 本 金／497億円
本 店／千葉市中央区富士見1丁目11番11号
千葉みなと本部／千葉市中央区千葉港5番45号
従 業 員／2,046名
総 資 産／5兆4,314億円

預 金／4兆9,325億円
貸 出 金／3兆7,543億円
自己資本比率／単体 11.19%
(国内基準) 連結 11.17%
格 付／A-(S&Pグローバル・レーティング)
A+(株式会社日本格付研究所)
拠 点／店舗 122カ店
(本支店：120カ店 出張所：2カ店)
外貨両替出張所 4カ所
店舗外ATMコーナー 157カ所
(2020年9月30日現在)

Contents

トップメッセージ	3	地域社会への貢献(CSR)	15
業績推移(単体情報)	5	株主の皆さまへ	17
お客さまに寄り添った営業の実践	7	店舗・本部地図	18
さらなる発展へ向けて	13		

SDGsの取り組み

お客さまに寄り添った営業の実践

地域密着型金融の推進

P9 事業性評価への取り組み

お取引先企業をマッチング

P10 ライフステージに応じたコンサルティング機能の発揮

P11 ソリューション提案

P12 M&A支援・事業承継支援の状況

「経営者保証に関するガイドライン」への対応



さらなる発展へ向けて

デジタライゼーションの推進

P13 京葉銀行スマートフォン専用アプリをリニューアル

オンライン口座開設がさらに便利に

P14 新しい生活様式に向けたWeb活用



企業価値の向上に向けて

コロナ禍における社会貢献活動

P15 新型コロナウイルス感染対策に係る千葉県への寄付

ちばの花を飾ろう!「花いっぱいプロジェクト」への賛同

CSR活動

P16 「フードバンクちば」への食品の寄付



SDGs(エスディージーズ)とは?

人類は、貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇など、数多くの課題に直面しています。このまでは、安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまう…そんな問題意識から、国連において、全ての人々にとってより良い世界をつくるために課題を整理し、採択された「2030年までの達成を目指す17の目標」が、「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

トップメッセージ

はじめに

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症により、感染された方々やそのご家族、また影響を受けている全ての皆さんに心からお見舞い申し上げます。



このたび、「2020京葉銀行中間レポート」を作成いたしましたので、ご案内を申し上げます。ご高覧のうえ当行に対するご理解を深めていただければ幸いに存じます。

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業収益が大幅に減少し、設備投資に弱い動きがみられるなど、依然として厳しい状況が続いております。足元では、経済活動は徐々に正常化に向かいつつありますが、地域によっては感染の再拡大が懸念されており、事態の収束には時間が必要であると考えられます。

当行の経営基盤である千葉県経済においても観光業、飲食・サービス業をはじめとする幅広い業種、そして個人の生活に至るまで影響は広がり、先行き不透明感は未だ拭えておりません。

このような環境下、当行では、新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、資金繰り支援や資産運用のアフターフォローなど、地域のお客さまに寄り添い、様々なご相談に応じることを

確かな“きずな”を、未来へ。

取締役頭取

熊谷俊行

最優先課題として位置づけ、日々の業務に取り組んでまいりました。

私たち地域金融機関にとって、地域の成長、発展なくして自らの持続的な成長はありません。こうした思いを強く持ち続けながら、以下の課題への取り組みを通じて、環境の変化に対応し、お客さまとの“確かなきずなを未来へ”とつなげてまいります。

お客さまに寄り添った営業の実践

お客さまが抱える課題に対して、当行グループおよび外部機関、他企業との連携を通じ、金融のみならず幅広い方面から解決に導く、お客さまに寄り添った営業の実践に努めてまいります。

法人のお客さまへの円滑な事業承継やM&Aの活用のほか、個人のお客さまへの長期的な資産形成や相続対策など、お客さまの「事業と雇用」「生活と財産」を支えるべく、課題解決型の営業を強化しております。

また、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた、お客さまの生産性と企業価値向上につながる本業支援にも、積極的に取り組んでまいります。

オムニチャネルの構築

ますます多様化するお客さまニーズに的確に対応し、お客さまに“いつでも・どこでも・便利で

安心・快適”な金融サービスをご利用いただけるよう、オムニチャネルの構築に向けた各種施策を展開してまいります。

スマートフォン専用アプリのリニューアルにより利便性と安全性の拡充を図っているほか、コロナ禍でも安心してご相談いただけるオンラインセミナーや各種相談会を開催するなど、デジタル技術を積極的に活用し、非対面チャネルの充実に努めています。

一方で、店舗については、ネットワークの見直しや業務効率化により、お客さまとの接点を確保しながら、コンサルティングに特化できる体制とするなど、オムニチャネルの構築を通じて新たな価値・サービスを提供してまいります。

結びに

こうした取り組みに加えて、「環境・社会・ガバナンス(ESG)」の充実と、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」を意識した経営を行うことで、全てのステークホルダーの皆さまのご期待にお応えできるよう、京葉銀行グループ役職員一同全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年12月

業績ハイライト

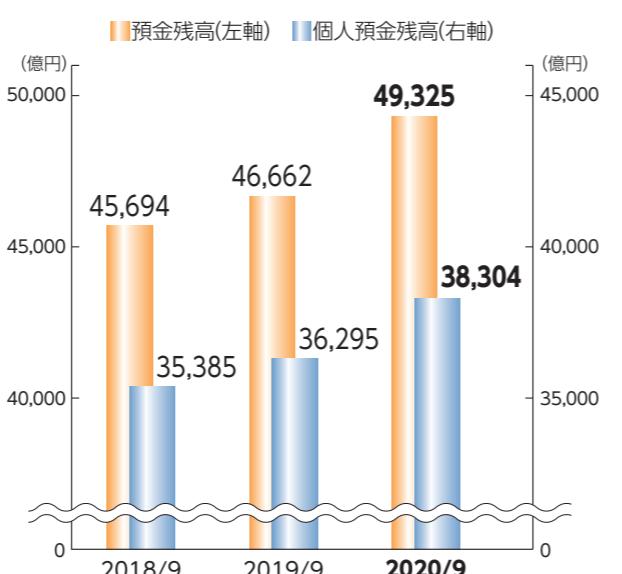
2020年9月期の業績につきましては、預金残高は4兆9,325億円、貸出金残高は3兆7,543億円となりました。

利益面では、与信費用および経費の減少や資金利益の増加により経常利益は前年同期比56百万円増加し60億99百万円、中間純利益は40百万円増加し42億23百万円となりました。

■預金残高・個人預金残高

**4兆9,325億円
(年間増加率5.7%)**

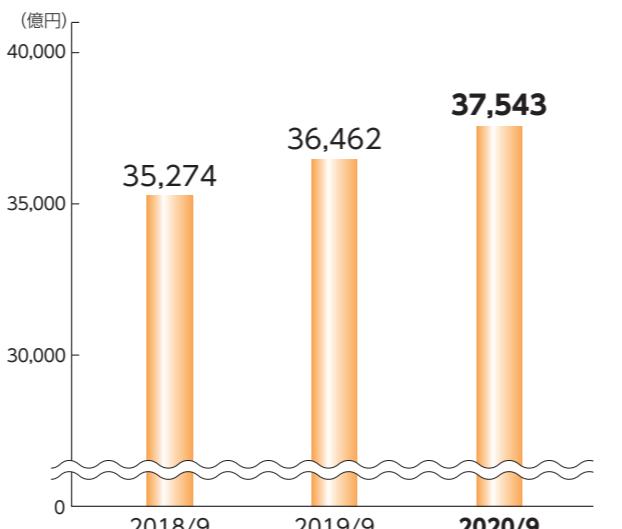
預金残高は、個人・法人ともに要求払預金を中心に、前年同期比2,663億円増加し、4兆9,325億円(年間増加率5.7%)、個人預金残高は前年同期比2,008億円増加し、3兆8,304億円(年間増加率5.5%)となりました。



■貸出金残高

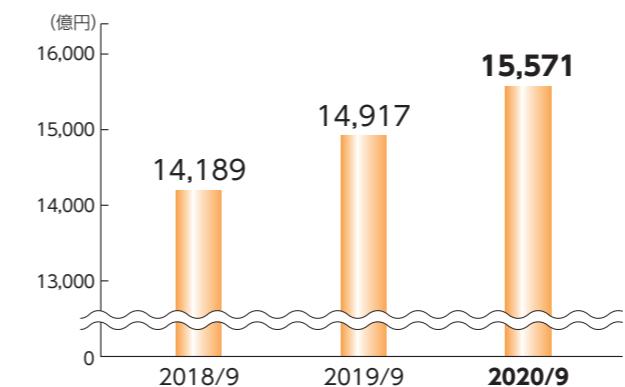
**3兆7,543億円
(年間増加率2.9%)**

貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、お取引先の資金繰り支援に積極的に取り組んだ結果、前年同期比1,081億円増加し、3兆7,543億円(年間増加率2.9%)となりました。



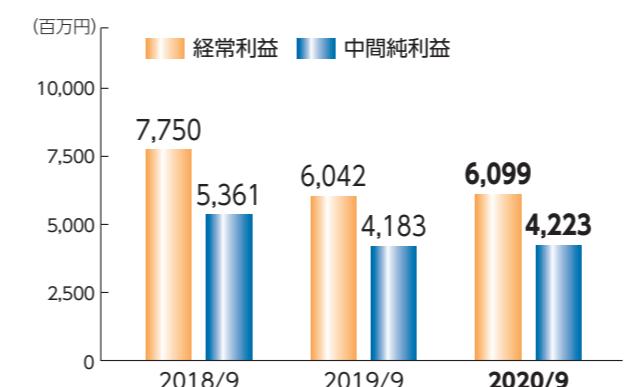
■住宅ローン残高

お客さまの住宅資金ニーズに積極的にお応えした結果、住宅ローン残高は、前年同期比654億円増加し、1兆5,571億円となりました。



■経常利益・中間純利益

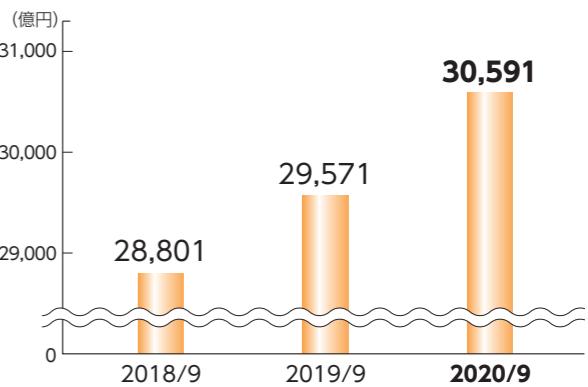
経常利益は、前年同期比56百万円増加し、60億99百万円、中間純利益は、40百万円増加し、42億23百万円となりました。



■中小企業等向け貸出金残高

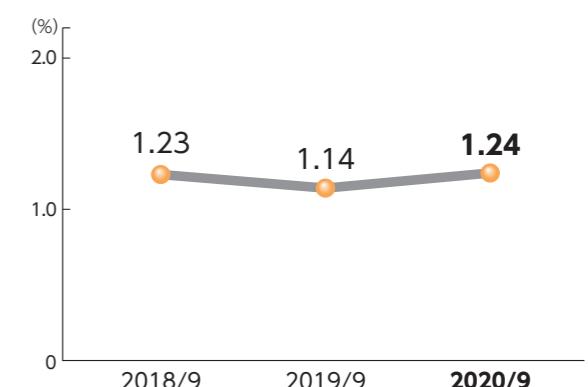
中小企業等向け貸出金残高は、前年同期比1,020億円増加し、3兆591億円となりました。

※中小企業等向け貸出 = 個人向け貸出+中小企業向け貸出



■不良債権比率(金融再生法基準)

金融再生法基準の不良債権比率は、前年同期比0.10ポイント増加し、1.24%となりました。



お客さまに寄り添った営業の実践



新型コロナウイルス感染症の対応

新型コロナウイルス感染拡大により、影響を受けられた法人・個人のお客さまをご支援するため、融資相談窓口や専用ダイヤルの設置、特別支援融資の取り扱い、国の助成制度の紹介などサポート体制の強化に努めています。

支援内容

▶「融資相談窓口」および「融資専用ダイヤル」の設置

全営業店(ローンプラザ含む)に融資相談窓口を設置し、法人および個人事業主のお客さまの資金繰り支援や既存のお借入のご返済相談に真摯に対応しています。

▶融資条件変更手数料の免除

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けられた法人および個人のお客さまに対して、2021年3月31日お申込みまでご融資の返済条件を変更する際の手数料を免除しています。

▶個人ローン返済支援チームの設置

住宅ローン利用者など個人のお客さまの返済相談に迅速かつ適切に対応するため、経験豊富な人材で構成されるチームを融資部内に新設しました。

▶中小企業への円滑な資金繰り支援

コロナ禍における中小企業の足元の資金繰りに対応するため、千葉県信用保証協会と連携して、実質無利子・無担保融資の取り扱いを行っております。

◆新型コロナウイルス関連融資状況 (2020年9月末現在)

	事業性融資	住宅ローン
相談件数	8,609件	8,282件
新規融資相談	7,860件	327件
申込	7,827件	2,172億円
実行	6,640件	1,834億円
条件変更相談	422件	327件

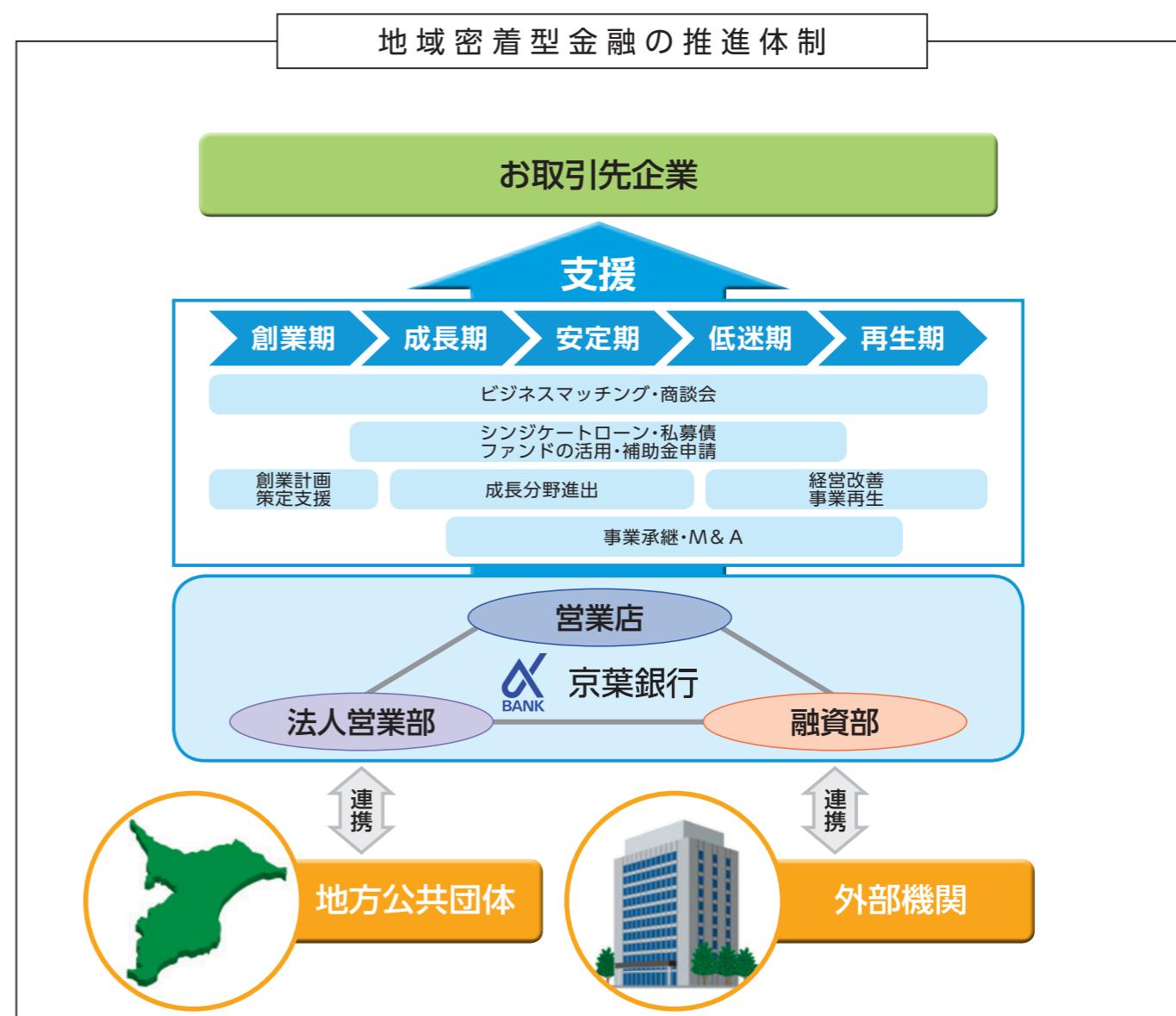


▶資本性劣後ローンの取り扱い

2020年12月より、新型コロナウイルス感染症の影響を受けられた法人のお客さまの資金調達手段の多様化、資金繰りの安定化および財務基盤強化を図るため、新たな資金繰り支援の枠組みとして、「資本性劣後ローン」の取り扱いを拡充しました。

地域密着型金融に関する基本的な考え方

当行は、「地域への貢献」「堅実な経営」を重要な使命と位置づけ、地域密着型金融を推進しています。2018年4月よりスタートした『第18次中期経営計画』においても、基本戦略の1つに「お客さまに寄り添った営業の実践」を掲げ、お取引先企業の事業内容や成長可能性等を適切に把握した事業性評価に基づき、資金供給や本業支援に取り組んでいます。今後も、「金融仲介機能のベンチマーク*」を効果的に活用し、経営課題の解決へ最適なソリューションを提供することで、地域経済の発展と地方創生の実現に積極的に貢献してまいります。



※金融仲介機能のベンチマークとは?

金融機関における金融仲介機能の発揮状況を客観的に評価できる指標として、金融庁より公表されました。

共通ベンチマーク …金融機関が、金融仲介の取り組みの進捗状況や課題等を、客観的に評価するために活用可能な指標のことです。

選択ベンチマーク …金融機関が、自身の事業戦略やビジネスモデル等を踏まえて、選択できる指標のことです。

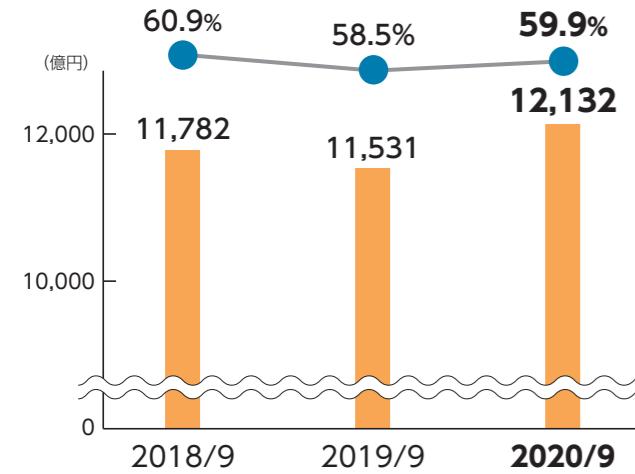
お客さまに寄り添った営業の実践

地域密着型金融の推進

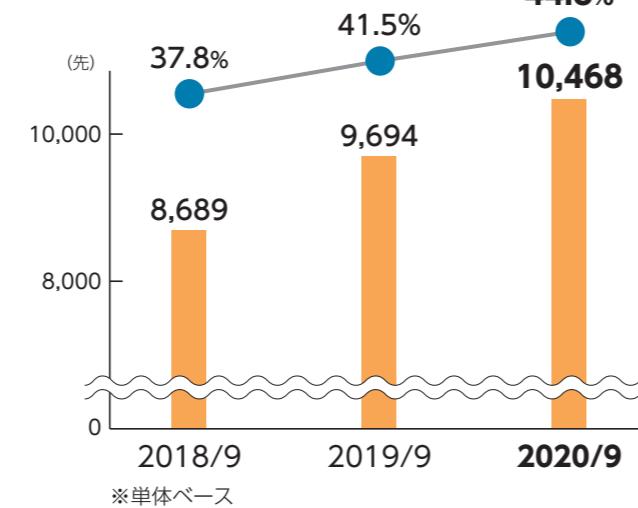
事業性評価への取り組み

お取引先企業の担保・保証に依存しない、対話を通じた事業性評価が、本業支援の第一歩であると認識し、実施先の増加に向けて取り組みを強化しています。

◆事業性評価に基づく融資を行っている与信先の融資残高および割合 〔共通ベンチマーク〕



◆事業性評価に基づく融資を行っている与信先数および割合 〔共通ベンチマーク〕



お取引先企業をマッチング

第二地方銀行間のネットワークを活かし、企業紹介や販路拡大を支援することで、地域の活性化をサポートしています。

●食の魅力発見商談会

今年で10回目となる、全国の第二地方銀行協会加盟行が連携して開催する「食の魅力発見商談会」は、従来の展示会形式からデジタルを活用したデータベース形式によるオンライン個別商談に変更し、開催いたしました。



ライフステージに応じたコンサルティング機能の発揮

お取引先企業との対話により、創業期から再生期までのライフステージ*に応じた、真の経営課題を的確に把握し、本業支援やソリューション提案等、必要に応じた支援を継続的に行ってています。

◆ライフステージ別の与信先数および融資残高 〔共通ベンチマーク〕

2020/9	全与信先 ^(注)	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期
与信先数	23,330先	1,573先	1,867先	9,035先	553先	1,946先
融資残高	20,243億円	713億円	1,708億円	11,166億円	400億円	2,023億円

(注)全与信先とは、法個人の事業性貸出先の総数を指します。(5期分の決算データがない先は除く)

*ライフステージとは?

創業期…創業、第二創業から5年までの期間
成長期…売上高平均で直近2期が過去5期の120%超
安定期…売上高平均で直近2期が過去5期の120%～80%
低迷期…売上高平均で直近2期が過去5期の80%未満
再生期…貸付条件の変更または延滞がある期間

▶創業期

事業の内容や特性を把握するための実査・面談など、地域金融機関ならではのリレーションシップを活かし、お客さまの創業・新規事業の展開に向けた支援ができるよう努めています。

◆当行が関与した創業、第二創業*の件数 〔共通ベンチマーク〕

	2018年度上期	2019年度上期	2020年度上期
当行が関与した創業	528件	617件	765件
当行が関与した第二創業	0件	1件	0件

*第二創業とは?

既に事業を営んでいる企業の後継者や既存の事業を譲渡(承継)した経営者が新規事業を開始すること、または抜本的な事業再生によって企業が業種を変えて再建することです。

●創業個別相談会

県内で創業を予定している方や創業間もない方に対し、創業前後の疑問や悩み・不安などを解消するための相談会を実施し、金融機関の立場から経営支援を行っています。

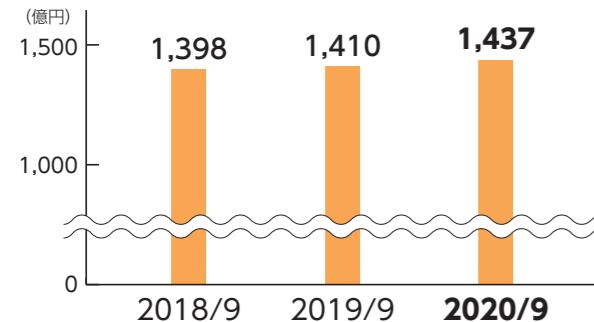


お客さまに寄り添った営業の実践

▶成長期、安定期

法人営業部では、「医療・介護」「環境」「海外」「農業」などの成長分野ごとに専門の担当者を配置し、事業者の皆さまにきめ細かいサポートを行っています。

◆成長分野向け融資残高



●農福連携セミナー

農業従事者の高齢化や減少、また障がいのある方の社会参画など、農福連携は有効な取り組みとして注目を浴びています。

2020年9月、農業生産者や福祉関連事業者向けに「農福連携セミナー」を開催しました。



▶低迷期、再生期

中小企業診断士等の資格を有する行員が、外部機関や専門家と連携し、お取引先企業との面談を重ね、経営改善支援や事業再生支援に継続的に取り組んでいます。



ソリューション提案

お取引先企業のライフステージに応じた経営課題を共有し、専門的な機能を活用しながら、事業承継、M&A、シングルローンなど、課題解決に向けたコンサルティングを提供しています。

また、コロナ禍でのソリューション提案として、資本性劣後ローンの拡充やWebセミナーを通じた公的支援策活用の情報提供など、お客さまに寄り添った営業の実践に努めております。

M&A支援・事業承継支援の状況

連結子会社である京葉銀キャピタル＆コンサルティング(2019年4月設立)と連携し、自社株式・相続資産評価、保険の活用や遺言信託、M&Aなどお取引先企業に対し、課題解決に向けた具体的な提案を行っています。

◆M&A支援先数

期間	支援先数
2018/9	20先
2019/9	89先
2020/9	33先

※2018/9は、当行で携わった支援先数

2019/9、2020/9は、当行と京葉銀キャピタル＆コンサルティングで携わった支援先数の合計

◆事業承継支援先数

期間	支援先数
2018/9	110先
2019/9	245先
2020/9	73先

「経営者保証に関するガイドライン」への対応

「経営者保証に関するガイドライン*」の趣旨を踏まえ、経営者の保証に依存しない融資を一層促進するとともに、既存の融資についても同ガイドラインで示された保証契約のあり方に基づく適切な対応に努めています。

◆ガイドラインを踏まえた取組状況

項目	2019年度上期	2019年度下期	2020年度上期
新規に無保証で融資した件数	2,230件	2,024件	2,750件
保証契約を変更・解除した件数	120件	131件	169件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	27.0%	25.3%	26.2%

◆事業承継におけるガイドラインへの取組状況

項目	2019年度上期	2019年度下期	2020年度上期
代表者交代時において、旧経営者との保証契約を解除し、かつ、新経営者との保証契約を締結しなかった割合	2.0%	5.9%	13.0%
代表者交代時において、旧経営者との保証契約を解除する一方、新経営者との保証契約を締結した割合	72.0%	68.7%	71.0%
代表者交代時において、旧経営者との保証契約は解除しなかったが、新経営者との保証契約は締結しなかった割合	13.0%	19.5%	13.7%
代表者交代時において、旧経営者との保証契約を解除せず、かつ、新経営者との保証契約を締結した割合	13.0%	5.9%	2.1%

※「経営者保証に関するガイドライン」とは?

中小企業・小規模事業者等の経営者による個人保証について、保証契約を締結する際や、金融機関等の債権者が保証履行を求める際ににおける、中小企業・小規模事業者等、保証人、金融機関等の自主的なルールを定めたものです。

さらなる発展へ向けて



デジタライゼーションの推進

“いつでも・どこでも・便利で安心・快適”にご利用いただけます。デジタル技術を積極的に活用し、コロナ禍でも安心してご相談いただけるよう非対面チャネルの充実に努めています。

京葉銀行スマートフォン専用アプリをリニューアル

2020年9月、個人版インターネットバンキング等、利用頻度の高いサービスをより便利にご利用いただけます。トップ画面やメニューを見直しました。Web口座開設やローン申込などの申込コンテンツも拡充しています。

スマホアプリでもっと便利な京葉銀行

かんたんログイン設定
指紋認証や顔認証でらくらくログイン!

スマートフォン専用アプリ
かんたん3ステップで口座開設のお申し込み!
①メールアドレスを登録し、マイページを開設。
②自動送信されるメールに記載されたURLへアクセスし、画面の表示に従って必要事項を入力。
③本人確認書類、顔写真を撮影して送信。

これからも安心・便利なサービスを順次拡大予定!

オンライン口座開設がさらに便利に

2020年9月より、Web上で本人確認を完結するeKYCを活用したオンライン口座開設の取り扱いを開始しました。

本人確認書類と本人の容貌(顔)をスマホのカメラで撮影することで本人確認が完結します。口座開設までの期間が従来の10日程度から2営業日程度と大幅に短縮されます。

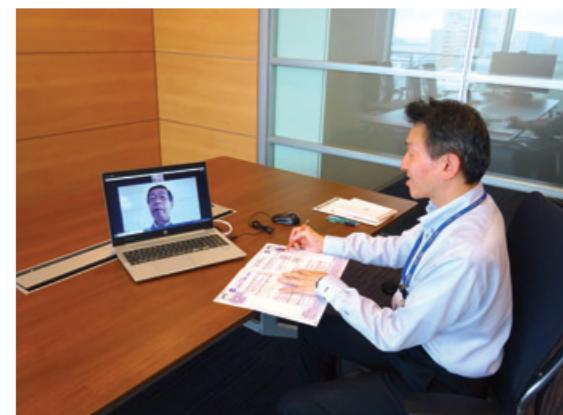


新しい生活様式に向けたWeb活用

コロナ禍での新しいコミュニケーションツールとして、デジタル技術を活用したオンラインセミナー、各種相談会を開催しています。

▶年金相談会

年金のお受け取りを控えた方を対象に、社会保険労務士の資格を保有する行員が支店のタブレットを使用してお客様と個別に年金相談を行っています。



▶事業者向けセミナー

コロナ禍における中小企業支援の一環として、事業者さま向けに“ウィズコロナ”“アフターコロナ”社会にどのように適応していくか、セミナーを通してタイムリーな情報提供に努めています。



▶内定式

2020年10月、2021年度入行予定者の内定式を初めてオンラインで行いました。内定式後の懇親会では、「地産地消」の観点から県産の食材を使った軽食と飲み物を用意し、内定者は“千葉で働き地域貢献していく”という意識を高めました。



地域社会への貢献(CSR)



コロナ禍における社会貢献活動

地域金融機関として新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けられたお客さまをサポートしています。

新型コロナウイルス感染対策に係る千葉県への寄付

2020年6月、新型コロナウイルス感染対策に向けた支援として、医療従事者の皆さまの活動に役立てていただくため、千葉県に総額250万円を寄付いたしました。



ちばの花を飾ろう！「花いっぱいプロジェクト」への賛同

2020年11月、新型コロナウイルス感染拡大の影響で需要が減退している千葉県産の花の消費拡大を促すため、県内の全営業店において、花を飾ってお客さまをお迎えしました。



Topics

●京葉銀行野球部

2020年11月、地域の皆さまのあたたかいご声援のもと、千葉県代表として「天皇賜杯第75回全日本軟式野球大会」に出場し、準優勝しました。



CSR活動

地域社会の一員として持続可能な社会づくりに取り組んでまいります。

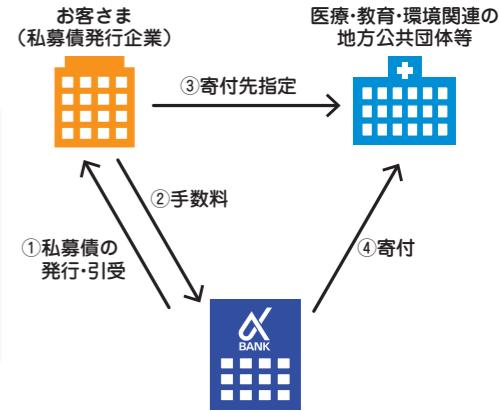
京葉銀行SDGs寄付型私募債

京葉銀行SDGs私募債を発行されるお客さまから受け取る手数料の一部を医療・教育・環境関連の法人・団体、地方公共団体等に寄付する取り組みを行っています。

なお寄付先は、お客さまにご指定いただいています。



株式会社大森工業野田 根上社長(左)
寄付先:千葉県を通じ医療関連



「フードバンクちば」への食品の寄付

「フードバンクちば」と千葉県社会福祉協議会は、共催で『フードドライブ』と称し、千葉県内の家庭や企業から提供された食品を福祉施設や困っている方々に無償で届ける活動を行っています。当行もこの活動に賛同し、2020年12月、役職員から提供された食品とともに「フードバンクちば」に寄付を行いました。



カレンダーへの千葉県出身の若手有望画家を採用

1974年のカレンダーより、千葉県にゆかりの深い有名画家の作品をご紹介してきました。2005年からは、今後ますます活躍が期待される若手画家を中心に紹介しています。

2021年は、船橋市在住の洋画家瓜生 剛氏が千葉県内の風景を描いた作品をご紹介します。



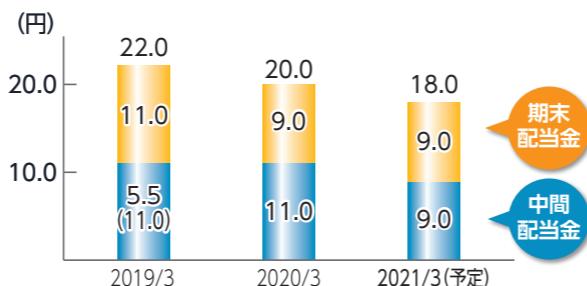
資本政策の基本的な方針

当行は、銀行業としての公共性に鑑み、健全経営と内部留保の充実に努めるとともに、ステークホルダーへの適切な利益配分を行います。また、内部留保金については、お客さまへのサービス向上のための設備投資を行うとともに、経営基盤の拡充や経営体質の強化のため有効に活用いたします。

引き続き、財務の健全性、資本効率および株主還元の最適なバランスを追求し、企業価値の向上に努めてまいります。

年間配当金(1株当たり)

1株当たりの中間配当金は、当初計画どおり、9円としました。なお、2021年3月期の期末配当金は9円(年間配当金18円)を予定しています。



※2019年3月期年間配当金については、2018年10月1日付株式併合を反映して記載しております。

株主優待制度

株主の皆さまの日頃のご愛顧に感謝するとともに投資魅力を高め、より多くの株主さまに長期的に当行株式を保有していただくことを目的に株主優待制度を導入しています。



満期日前にご解約された場合、当行所定の中途解約利率が適用されます。

※くわしくはお近くの営業店、もしくは京葉銀行総務グループへお問い合わせください。

☎ 0120-367-300 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝日および12月31日～1月3日は除きます)



県内のバリアフリー施設を千葉県が紹介する「ちばバリアフリーマップ」に当行の店舗が掲載されています。

千葉県健康福祉部「ちばバリアフリーマップ」

<http://www.pref.chiba.lg.jp/pbbfmap/>